



日野原重明記念

# 「新老人の会」東京 会報

Keep on going!

Vol.3/No.2

2021.4

## 受け継いでいくこと

「新老人の会」東京 世話人副代表 水口 緑

私の叔父、日野原重明が天に召されてから、三年半の時が流れました。

私は大学で保健学を学び、(財)ライフ・プランニング・センターに職を得て、生活習慣調査担当を務めました。フィールド調査のデータ纏め、地方での講演や調査に伴うなど、叔父との時間は思い出を遥かに超えた掛け替えのない学びの時間と感じています。

二〇一三年、ひよんなことから参加した東京マラソンがきっかけとなり、国内だけでなく海外の大会にも参戦するようになりました。マラソンは時間や場所を問わずに自分のペースで練習できるので、運動不足に陥りがちなフリーランス翻訳者の私に向いていたのだと思います。

まずはマラソン発祥の地、アテネの大会に参加したのです。旅のついでに医学の父ヒポクラテスの生地コス島まで足を延ばし、紀元前四百年頃の彼の「ヒポクラテスの木」と同じDNAを持つと伝わ



ブダペストマラソン

るプラタナスの木を仰いできました。その時落ちていた実を記念に持ち帰り、叔父の百三歳の誕生日プレゼントにしました。「聖路加の庭に植えてもらうよ」と掌に実を愛でながら喜んでくれた叔父の笑顔をよく思い出します。

その後会う度に「今度はどこを走るの？」と叔父は興味津々。パリマラソンでは、医師の証明書が必要と言うと二つ返事で書いてくれたこともありました。二〇一七年、ストックホルムマラソンで、低迷していたタイムが初めて五時間を切ったのです。当時に病床にあった叔父を励ます思いもあり、「還暦を過ぎて自己ベスト更新しました」と叔父に絵葉書を送りました。直ぐに叔父から電話が

あり、「良かったね。僕の百六歳の誕生日に皆にその話をしてくれない？メダルはないの？見たいなあ」その時はいつもと変わらないうしろ高めの元気な声でした。

帰国して会いにいくと、叔父はベッドを起こして静かに座っていました。ニコニコしていましたが、電話の時の声の張りはありません。マラソンのメダルを見せ、暫く雑談していましたが、頷くだけになったので、「そろそろ失礼しようかな。そうそう、明日は『新老人の会』の世話人会なんです」と言うと、一瞬叔父の眼が輝き、「頼むね」とはっきりした声で言ったのです。その時の叔父の眼差しが、声音が今も脳裏に耳底に深く残っています。それは亡くなる一週間前のことでした。

新たに発足した「新老人の会」東京、このコロナ禍、叔父ならどうするだろう、「頼むね」の言葉にどう応えたら、と自問しています。



ヒポクラテスの木の実を喜び重明叔父

叔父の最後の著書となった文庫版『生きていくあなたへ』に、お

忙しい山中伸弥先生が推薦文を書いてくださいました。感謝感激とはこの事です。折も折り、山中先生が京都大学IPS細胞研究財団を立ち上げられたと知り、昨年十二月より少額ながら財団への寄付を始めました。今年一月、山中先生のオンライン講演があり、若手の研究者たちが不安定な雇用形態で研究を続けていること。毎年のように日本人のノーベル賞受賞者が出てくるものの、殆どが二、三十年前の研究業績に基づくもので、研究論文の数は日本だけが減り続けている、等々お話がありました。

そこで、新型コロナウイルス感染症で身動きの取れない私たちに出来る活動として、研究環境改善の一助となる寄付を呼び付けたいと思います。千円から受け付けいたします。同封のパンフレットを参考に、賛同頂ければと存じます。



# 「日野原先生の精神(こころ)を継ぐ」4

## 受け入れられなかったVision



医療法人社団パリアン 理事長  
クリニック川越 院長 川越 厚

主の言葉がわたしに臨んだ。「わたしはあなたを聖別し諸国民の預言者として建てた」 (エレミヤ書1:5)

重明先生は父君の善輔先生の遺稿集に、善輔先生が院長時代、広島女学院百年の計を画し、近郊の「牛田山に三万余坪の土地を購入したこと」を記していらつしやいます(遺稿集p638)。この土地購入に

対しては強い反対があったようで、重明先生も御著書『生きていくあなたへ』(p137)で、善輔先生「夫妻が広島女学院を去る時の様子を痛々しく描いていらつしやいます。私事で恐縮ですが、私の父は善輔先生を尊敬しその影響を強く受けており、先生の母校の関西学院神学部へ進学しました。その父は、日野原先生「一家が広島を去るときの話になると、決まって口が重くなり多くを語りませんでした。世間には牛田山の土地購入について誤解から出た誹謗中傷があり、父母もそのことに心を痛めていたようつです。」

が牛田の山に敷地を準備したことは、のちに重大な意味を持ちました。五日市に購入した土地が、戦時下の物資不足で活用できないまま、陸海軍から使用中止を迫られ、代替地として入手した牛田の山に、日野原

は心身鍛錬と勤労作業のための修練道場をつくりました。一九四五(昭和二〇)年八月六日、広島に原爆が投下され、生徒・教職員三五〇名が死亡(被爆後一年以内の死亡者のみの数)、校舎、施設のすべてを失ったときに、ここが広島女学院にとって救いの場となったのです。

善輔先生の見た幻(Vision)を皆が理解し受け入れるようになるまでには、実に五十年以上の歳月が必要でした。創立百周年(一九八六年)を機に善輔先生の功績を称える動きが強まり、レリーフと顕彰碑文の除幕式(一九八九年十月)、ヒノハラホール

竣工献堂式(一九九六年四月)が執り行われました。小學生時代の一時期その牛田山のキャンパスを駆け回った経験を持つ私は(写真参照)、特別な喜びをもってこのNewsに接しました。

興味あることに、重明先



現在の牛田山に立つ「ヒノハラホール」。日野原 善輔先生の功績を記念し創立110周年(1996年)に建設された。筆者が幼少時期を過ごした当時(65年前の昭和30年頃)の牛田山は建物も少なく、緑多き山間だった。



父、弟と共に(牛田山のキャンパスにて 1957年)

生も同様のことを経験されています。それは、先生が中心になって聖路加国際病院を新装改築された時のことです。新病院は全室個室で廊下部分がやたらと広く、結果的に看護職員の動線が長くなり建設にかかる費用などの問題もあつて、わたしの耳に入ってくる評判は決してよくありませんでした。しかしこの病院の新装改築にあたり、先生は神から霊を注がれ、幻(Vision)をご覧になったのではないかと思わされるような出来事。地下鉄サリン事件がその後起こりました。「無駄だ」と陰口を叩かれた廊下が急遽大きな病室に変わり、被災者の多くのいのちを救ったことは記憶に新しいと思います。

ところで冒頭の言葉は、涙の預言者エレミヤの招命記事です。エレミヤは民にバビロン捕囚を預言するのですが、そのため彼は激しい反発と迫害を受けました。旧約聖書に出てくる預言者は神からスピリットを注がれた特別な人ですが、人々の無理解ゆえ迫害はつきものでした。その預言者の姿に、日野原先生親子の生きざまを重ねるのは私だけでしょうか。

重明先生は善輔先生が見た幻が当時の人々に理解されなかったことに関し、次のように述べています。

「同世代の人がすぐにはわからなくても、真に価値のあるもの、つまり真に美しいものに時代は必ず追いついてきます。歴史の評価に耐えうる強さがあるからです」(生きていくあなたへ、p138)。

この言葉の真実の根底には、「聖霊を注ぎ、幻を通して計画を示す神を信じ従う」という、日野原先生親子の揺るぎなき信仰が存在したからだとい私は考えています。

### 初めての俳句

コロナ自粛のため、ネットでの句会が続いています。選句をゆつくりできるなど、よい点も有りますが、以前のように対面で飛鳥先生の批評を伺い、語り合える会に早くなれば良いと思っています。

近藤 秀子

三月 兼題「囀り」「才」

揚げ雲雀空に吸はれてゆきにけり 夢子  
 剣道の一本決まる百千鳥 コッコ  
 文箱に螺鈿一面薄水 緑  
 鬼才とは何が物差し春疾風 寛子  
 それぞれの才能讀み卒業式 明子  
 紅梅の十本あれば十種の赤 蘭

(飛鳥 蘭選)

# コロナ禍を生きる

\*\*\*\*\*

小坂 三吉（八十六歳 福島県）

「新老人の会」の三つのモットーの中に、「耐えること」があります。コロナ禍は正に耐えることの試練。感染防止、三密を避ける、不要不急の外出の制限など、生活習慣の変化や不慣れた生活に一年以上耐えています。

百数年前にもスペイン風邪が猛威を振るった歴史があり、終息に三年くらいかかったとあります。新型コロナウイルスの終息は何年か。一日も速い終息を心から祈る一人です。

田舎暮らしの一老人の素朴な疑問ですが、新型コロナウイルスはどこから来たのか。地球上か、宇宙からか、ウイルスはどこで発生したのか。自然界で発生したものであれば、考えようでは人が作り出した核以上に無限の恐怖感があります。無知なる老人の悩みでもあります。

\*\*\*\*\*

徳植 弘之（八十五歳 東京都）

新型コロナウイルスの感染を避けて、今は外出を自粛していますが、私の自適生活について述べてみます。

私は俳句を創ることが趣味ですが、今は、吟行も対面句会もできません。句座が囲めずとても残念です。しかし、通信による句会ができますので、句作を続けてい

ます。いろいろなところへも投句しています。趣味を活かして生活に張り合いをもつことが大切だと思います。

また家では、発泡スチロールの箱に培養土を入れて草花を育てたり、野菜を作ったりして楽しんでいきます。家庭園芸、家庭菜園は狭い所でもできますので、お勧めです。コロナが早く収束し、平常の生活に戻ることを願っていますが、それまでの辛抱です。

\*\*\*\*\*

見目 哲子（八十一歳 さいたま市）

以前『モルゲン、明日』の上映会で坂田雅子監督のトークに出会い、ふるさとへ戻れない3・11の被災者たちとの交流活動の励みになった。私は定年後から人権問題で困っている女性たちの支援活動を続けているが、昨年からコロナ禍による自粛生活のなか、DV、虐待、性被害者たちのSOSが多くなった。傷ついた人たちの安心、安全な居場所の提供が重要だと思う。

坂田監督の言われた『モルゲン、明日』は、私たち一人ひとりがつくる「を噛みしめ、傷ついた人たちの明日のために、今、私にできることをする。それには、私自身の健康管理が第一と考えている。高齢ともなると持病との付き合いで無理はしない。いつものようにその日の体調をチェックし、いい顔で仲間と一緒に出かけるのだ。

\*\*\*\*\*

森川 恵美子（七十二歳 東京都）

今から十年程前、自由が丘駅で偶然学校時代の恩師宮川ユリ子先生にお会いしたのがマハロ・フラサークルとのお縁の始まりでした。数学の教師だった先生が今はフラダンスを教えていらっしやるとのこと。全くの初心者でしたが踊るのが大好きな私は、早速次回からの参加を決めました。フラは、身体には勿論、頭の老化防止にもなり、当時まだ仕事などで忙しかった私のストレス解消と癒やしの時間でした。

ところが昨春以来のコロナ禍で「新老人の会」のサークル活動は休止に。その中でも先生は、会場となる地区会館が抽選で確保できた時は、お一人でも必ずお出でになり、それを知った近所に住む会員も感染防止対策をして集まるようになりました。マスクのせいで時々息切れしつつ踊るフラは、コロナの不安から解放され心も身体も健康で楽しいひと時です。

\*\*\*\*\*

黒沢 多美子（五十八歳 松本市）

生きるとはよく眠ること。仏国ではぐっすり眠ることを、「ヤマネのように眠る」と例えるそうだ。

国の天然記念物に指定されているニホンヤマネは、冬眠前には体重を一・五倍にして体温を0度に下げ、心拍数を減らし半年間眠る。その姿は胎児のようにとっても愛らしい。ヤマネは体重十八g、体長八cm、蜜や花粉、アケビや赤とんぼを好物とし

ている。骨格は恐竜なみで安定して美しい。日本では百万年から住んでいる。「やまねミュージアム」より）

動物界においては最も弱い生き物だそう。弱きものには、適応力が備わっているのではないかと生態をきいて考えた。

コロナ禍が『一炊の夢』であつたらと願うのは私だけだろうか。暖炉の火を見ながら。

\*「やまねミュージアム」は、山梨県北杜市高根町清里の清泉寮にある日本で唯一の「やまねの博物館」です。  
<https://www.seisan-yo.jp/spot/yanane1.html>

## 大人のための「絵本」の会予告 9月8日スタート

この会は1回ごとにテーマを設定し、それに合った絵本を持ち寄り、参加された皆様で絵本を紹介し合う気楽な会としたいと思います。あなたも「絵本」を楽しみ、一緒にお話し合いませんか？絵本を持っていらっしやなくても聞くだけの参加も歓迎いたします。

- \*毎月第2水曜日 13:30～15:30
- \*会場：進興ビル2階会議室 第1回目 9月8日(水)
- \*テーマ：ゆうき 参加者10名 (感染予防のため要予約)
- \*件名「絵本の会 参加」と入力し下記までお申し込みください。  
midofuku945@hotmail.com
- 責任者 福井みどり (日本カウンセリング学会認定カウンセラー・スーパーバイザー 絵本セラピスト協会絵本セラピスト)

# 日野原重明記念「新老人の会」東京 2020年度会計報告

(2020年1月1日～2020年12月31日)

2020年度はコロナ禍により、準備が整っていた発足記念フォーラムを延期とし、その他の活動もすべて休止したため、支出は前年度より減少しました。

## 1. 収支 収入

(単位：円)

前年度繰越金	5,216,470
年会費	1,775,000
売上	20,113
合計	7,011,583

## 支出

会報印刷	283,360
会報送料	133,440
印刷費(会報以外)	163,550
配布用書籍	177,408
謝金(講師・その他)	100,000
寄付(原稿料にかえて東京大空襲戦災記念館)	50,000
通信費(郵送料、電話料金など)	187,426
接待交際費	17,940
消耗品費	50,487
郵便局払出し料金(年会費入金)	57,291
雑費	13,372
物品購入費	7,920
払込手数料	2,520
当期支出合計	1,244,714
次年度繰越金	5,766,869

## 2. 貸借対照表(2020年12月31日現在)

科目		科目	
資産の部		負債の部	
普通口座	987,980	未払金	0
当座口座	1,778,889		
定期預金	3,000,000	次年度繰越金	5,766,869
合計	5,766,869	合計	5,766,869

なお、定期預金の3,000,000円は日野原家からのご寄付です。

2021年2月26日関係書類を監査したところ、会計報告は適正であることを認める。

監事 本多 正之  
監事 関谷 真一

☆ご質問、ご意見がございましたら、Eメールアドレス(t.shinrojin@gmail.com)、ハガキなどでご連絡ください。

## 「マハロ・フラサークル」を主宰して

宮川 ユリ子

今から三十四年前、私は数学教師として学校勤めをしていましたが、スキーで、右膝の十字じん帯断裂、右足首骨折の大怪我をしたのです。車いす、松葉杖、リハビリの生活が続き、一生松葉杖を手放せないかも知れないという不安をかかえながら教壇に立っていました。その頃、出会ったのがフラです。

フラとはハワイ語で「踊る」という意味です。文字のないころから神への畏敬の念、感謝の祈りを表現したいため、また、気持ちを伝える手段として広まったといわれています。花、月、星、風、そして人の心、愛を、

音楽に合わせて腰や手足をしなやかに動かしながら踊るのです。特に手の動きは、歌の意味に合わせて手話で表現していくのです。フラは、私の足のリハビリになり、心の癒やしとなりました。

二〇〇三年春、定年退職を機に、日野原先生のお勧めで「新老人の会」のサークル活動として「数学を楽しむ会」、翌年「マハロ・フラサークル」を始めました。その頃のメンバーは最高齢八十三歳、平均年齢七十七歳でした。「新老人の会」の国内外の講演会ツアーに参加して、オープニングにフラを披露させていただきま

した。

コロナ禍の自粛生活で、テレビの健康体操を見る機会が多くなりましたが、その内容のほとんどが、フラの動きの中に含まれているのです。足を鍛えるため、フラのステップの練習と、一日に四〇〇〇歩以上歩くことを始めました。

日野原先生の「鳥は、飛び方を変えられることはできないが、人間は生き方を変えることができる」という言葉を思い出し、コロナ禍でしょげばかりいる自分が恥ずかしくなりました。この時間を自分のためだけにではなく、皆のために使う新しい生き方を考えていこう!と思っています。キープオンゴーイング!!



## 「新老人の会」東京

2021年 会員数362人(301件)  
2020年 会員数365人(307件)

### 会員募集中!

年会費

個人・家族会員 5,000円  
賛助会員 (一口) 10,000円

## 編集後記

・コロナ禍は未だ予断を許さない状況で、ワクチンが行き渡るまでは自粛生活の必要がありそうです。活動が再開できるまで、3ページ目は会員の方々のメッセージをいただき構成しております。

・水口緑さんの巻頭言にあります山中伸弥先生の京都大学iPS細胞研究財団への支援パンフレットを同封させていただきます。寄付の方法は単回(1回払)、定額(月払)、賛助会員(年払)です。詳しくは資料上段記載のフリーダイヤル(0120-80-8748)にお問合せください。皆様の心身のご健康を心よりお祈りしております。